

令和 3年 3月

## 田中裕子 学位論文審査要旨

主 査 藤 原 義 之  
副主査 中 村 廣 繁  
同 梅 北 善 久

### 主論文

Podoplanin expression in cancer-associated fibroblasts predicts unfavorable prognosis in node-negative breast cancer patients with hormone receptor-positive/HER2-negative subtype

(癌関連線維芽細胞におけるポドプラニン発現は、リンパ節転移陰性・ホルモンレセプター陽性・HER2陰性乳癌患者の不良予後を予測する)

(著者：田中裕子、大野貴志、門永太一、城所嘉輝、若原誠、野坂加苗、坂部友彦、鈴木喜雅、中村廣繁、梅北善久)

令和 3年 Breast Cancer 掲載予定

### 参考論文

1. Mitomycin C心嚢腔投与と全身化学療法を行い長期コントロールできている癌性心膜炎再発乳癌の1例

(著者：田中裕子、吹野俊介、大野貴志、児玉渉、西村謙吾、浜崎尚文)

平成28年 癌と化学療法 43巻 609頁～611頁

## 審査結果の要旨

本研究は、リンパ節転移陰性・ホルモンレセプター陽性・HER2陰性乳癌の切除検体を用いて、癌関連線維芽細胞(CAFs)におけるpodoplanin発現の臨床的意義を検討したものである。Podoplanin陽性はKi67標識率高値、腫瘍浸潤リンパ球(TILs)高値、プロゲステロンレセプター陰性と相関し、陽性患者は陰性例と比較し、無再発生存期間及び癌特異的生存期間が有意に短かった。癌特異的生存期間に関する多変量解析では、podoplanin陽性は予後不良に最も関与する因子であった。本論文の内容は、日常的にリンパ管侵襲を評価するために行われている抗podoplanin抗体を用いた免疫組織化学が、一般に予後良好とされているリンパ節転移陰性・ホルモンレセプター陽性・HER2陰性乳癌において、予後不良群を予測するために有用であることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。